

窓

函館五稜郭病院
えん だ けん
遠田 建

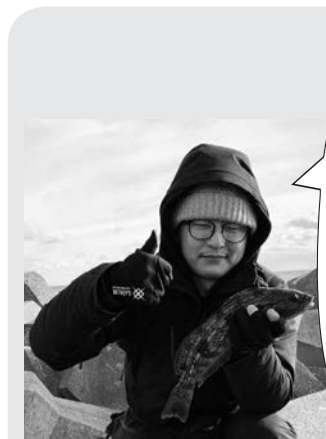
こんにちは。函館五稜郭病院一年次研修医の遠田建と申します。今回は、私の数少ない友人の一人である、北海道大学医学研究院の春日優介君からリレーエッセイのバトンを渡されました。よろしくお願いたします。春日君とは学部の4、5年次のポリクリが同じ班であり、約一年間病院実習を共にした仲間です。お互い学部生ながら研究室に通う共通点があり、しばしばお互いの研究内容についてプレゼンやディスカッションしあった仲間でもあります。

1月半ば、春日君から久々にLINEが来たと思えば、要件は本エッセイの依頼でした。私を知らない読者の方はご存じないと思われそうですが、私は元来極めて面倒くさがりな性格で、しなくてもいいことは一切やりたくない、やらなきゃいけないことは極限までに手短かに済ませたいスタンスです。これまで生きてきてこういったボランティアなどはほとんど一貫して頑なに断ったり逃げ出したりして生きてきました。そんな人間なので、ある程度私を知っている人間は私に頼みごとをすること自体がそもそも非常に稀です。あなたの周りにも少なからずいるはずですが、ちょっと頼みごとをしても絶対協力してくれなそうな人たちって。私はそのうちの一人です。

今回も例に漏れず、1～2月のローテーションの麻酔科がそれなりに多忙であったり、大学時代からズルズルと続いている研究の作業もあり、単純に自分の時間的な余暇など含め、「ああ、面倒くさいなあ」と思い、あれこれと断る理由もとい言いつつ頭の中を駆け巡っていました。しかし春日君の広い交友関係から私を選んでいただいたという名誉（何人にフラれたかなど野暮なことは聞いていない）と天秤にかけた結果、数日間の逡巡ののちバトンを受け取ることにいたしました。

実を言えば、私は頼まれること自体は実は嫌いではないのです。むしろ頼まれごとはちょっと嬉しいくらいです。私は極度の面倒くさがりである一方で、変に几帳面なところがあるため、やるからにはちゃんとやりたくなくなってしまうので、気軽に頼まれたものでも本格的にこなしたくなってしまうのです。そうすると当然自分の負担は大きくなるので、ストレスになります。そのストレスが簡単に予期できてしまうので、面倒くさいと思ひ、嫌な顔をするわけです。

これは自分にとってはごく自然な振る舞いなのですが、こういった話をすると結構驚かれることが多いです。私の自己イメージと、他者からのイメージの乖離がある、いわゆるジョハリの窓における、自分は知ってる・相手は知らない象限の「秘密の窓」



横浜出身。北海道大学医学部卒業後、たすきがけで函館五稜郭病院で一年目研修医をしています。2022年度からは北海道大学病院に戻って研修医二年目をこなしつつ、腫瘍病理学教室で大学院一年生を兼ねた生活になる予定です。臨床病理と並行してAIや機械学習を活用した分野と横断的な研究を行いたいと思っています。写真は趣味の釣りのときの一枚。

に相当する部分となります。一般的なビジネスや自己啓発の場では、自己開示や他人からのフィードバックによって自分も相手も知っている「開かれた窓」を広げることが、良い社会生活につながると言われています。

対称となる概念として、知らない・相手は知っている象限の「未知の窓」があります。私の話をしますと、私は病理画像や臨床データに対してAIを活用する研究を行っているのですが、この話を人に話すとほとんどの人は「すごいね」と褒めてくれるのですが、自分では心の底からまだまだ底が浅いもので、買いかぶりだと思ってしまう、といったようなものです。これに関してはすんなりと納得はできませんが、最近になってそんなに卑下することなく、もっと強みとして誇っているのかなと思ったりもしています。

この窓の少しやっかいなところは、「未知の窓」を広げるには相手の見え方を素直に受け取ればいいのですが、「秘密の窓」を広げるには自己開示によって相手に理解してもらう必要があるところです。もし相手の方が理解のない人なら「えー、君はそんな人間じゃないよ」と否定されるかもしれません。こうなってしまえば窓は広がりません。何より誰でも嫌な気分になります。短絡的には、そういった人間とはそもそも付き合い方を改めるべきであるとさえ思います。

ただ一方で逆に立って「私〇〇なんだよね」と言われたときに、頭ごなしに否定せずに、素直に聞き入れることが果たして自分にどれだけできるだろうか、とも思います。内容にもよりますが、言うほど簡単ではないのは間違いないはずですが。

私はあまり友達は多くない方ですが、人との関わりを見つめ直すといろいろなことが分かってきます。新たな自分の発見であったり、あるいはその発見に立ち会ったり、そういう前向きな関係を持てるような人間でいたいと思います。あまりこういう青臭いことを言うキャラじゃないと思われてるような気もするので、案外頼まれごとも嫌いじゃないことも含め、この場を借りて少しアピールさせていただきます。以上駄文、お読みいただきありがとうございます。